より近く より深く より前へ

MONTHLY ZEN-NOH GUNMA

県本部通信

4
2018 April
No.192

特集

平成30年度 全農群馬県本部組織機構図

平成30年度事業計画書

平成30年度職員人事異動

農とあゆむ JAグループ群馬 プロジェクト

私たち全農グループは、生産者と消費者を安心で結ぶ懸け橋になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。
- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

JA全農ぐんま

事業のうごき④

JA群馬担い手サポートセンター

○ＪＡ生産販売計画の実践支援
○営農指導機能強化支援
○農業経営管理支援
○法人等担い手支援
○出向く営農支援体制の強化と活動支援
○ＪＡ担当者の人材育成支援
○ＪＡの野菜振興取組支援
○農産物の安全・安心対策
○園芸作物生産実証農場の運営

畜産農産部

酪農畜産課

○生乳の計画生産の推進
○初妊牛導入推進
○素牛導入推進
○種豚導入推進
○渋川家畜市場若齢子牛の集荷推進
（優良ＥＴ卵産子の活用促進）

米麦特産課

○こんにゃく荒粉・製粉販売推進（入札の実施）
○きのこ種菌当用推進

園　芸　部

園芸販売課

○共計ほうれん草販売　（周年）
○共計チンゲンサイ販売　（周年）
○共計味にら販売　（周年）
○共計ブリックスナイン販売　（６月末日迄）
○県統一規格共計きゅうり販売　（７月末日迄）

販売促進課

○春野菜販売促進
○もやし類・加工野菜販売促進
○花き販売促進

園芸資材課

○夏用出荷資材予約・当用推進
（枝豆・みょうが・おくら・なす・ほうれん草他）
○春夏用青果物段ボール予約・当用推進
○果樹袋当用推進（りんご・ぶどう・なし・もも他）
○低コスト段ボール
（ＡＫライナー・ノンステープル段ボール）の推進
○ハウス用更新資材推進（農ビ・農ポリ等）
○ネポン暖房機予約推進（第１期・４～６月）
○濃ビ・農ポリマルチ予約・当用推進
○夏用野菜種子推進
（ほうれん草・枝豆・とうもろこし他）
○セル苗の予約推進（トマト・なす他）

生産資材部

花木流通センター

○花木流通センターの売出し・フェア
４月７日（土）・８日（日）　春一番園芸フェア
４月13日（金）～16日（月）　第一弾！春の菜園フェア
４月21日（土）・22日（日）　第二弾！春の菜園フェア
４月28日（土）～５月６日（日）　GW菜園フェア
○愛菜館の売出し・フェア
４月８日（日）・18日（水）・28日（土）
８の日お米フェア
４月４日・11日・18日・25日（水）
毎週水曜日　精肉全品２割引き

肥料農薬課

○セルフブレンド推進
○水稲肥料農薬推進
○茎葉処理除草剤大型規格推進
○バンカーシート推進

生　活　部

生活課

○太陽光発電推進　（周年）
○平成30年度新茶推進　（４月～６月）

葬祭総合課

○会員獲得募集の推進
○生花利用拡大運動　（周年）

施設住宅課

○賃貸アパート・個人住宅推進　（周年）
○カクイチ物置・広スペースハウス推進　（周年）
○住友不動産（株）「新築そっくりさん」推進　（周年）

自動車燃料部

石油課

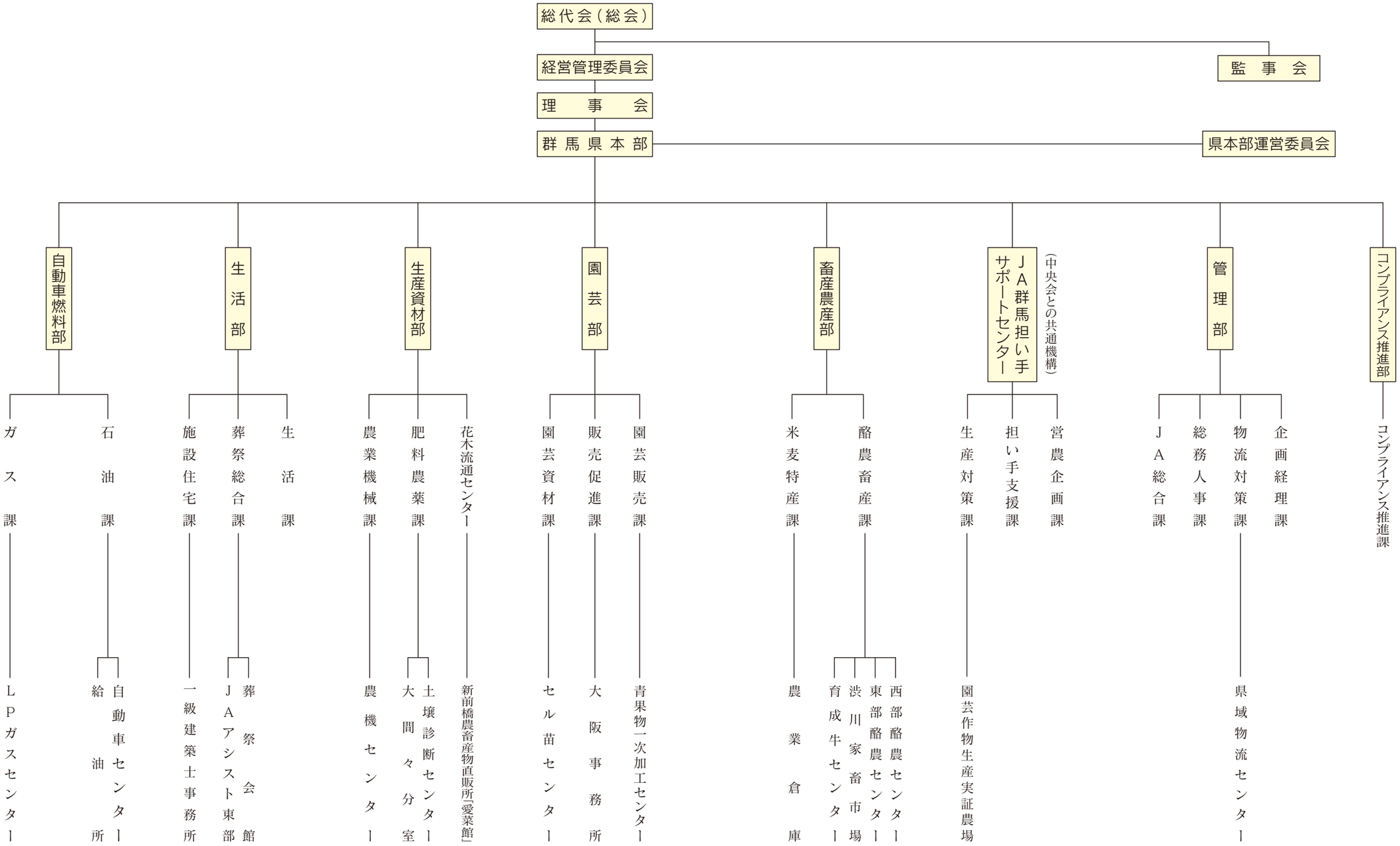
○春期タイヤキャンペーン　（３月～５月）
○オイルキャンペーン　（２月～５月）

ガス課

○オールブランドガス器具推進　（４月～12月）
○第１回クミアイガス器具推進　（４月～６月）

◆平成30年度　全農群馬県本部　組織機構図

平成30年4月1日現在



より近く より深く より前へ

平成30年度 事業計画書

全農グループ経営理念

私たち全農グループは、
生産者と消費者を安心で結ぶ懸け橋
になります。

私たちは「安心」を３つの視点で考えます。

- ■営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- ■安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- ■地球の環境保全に積極的に取り組みます。

全国農業協同組合連合会　群馬県本部

Ⅰ.基　本　方　向

１．情勢認識

⑴　生産基盤の弱体化と変化

県内の販売農家戸数･農業就業人口は､高齢化や後継者不足などにより減少し、耕作放棄地の増加等による生産基盤の弱体化により、地域によっては、集落機能はもとより農業生産力・自給力の維持すら困難となっています。一方、集落営農・農業生産法人の数は増加し、全耕地面積は漸減傾向で推移していますが、販売農家一戸あたりの経営耕地面積は増加し、大規模化が進行しています。畜産では全畜種で飼養戸数が減少していますが、飼養頭数は、ほぼ横ばいで推移しています。

⑵　消費動向

食生活の多様化などの影響で野菜･肉は増加傾向にあるものの主食用米は減少しており、１世帯あたりの家計消費支出における金額では外食・中食の比率が増加し、特に青果物では、サラダやカット野菜・惣菜需要が拡大しています。

⑶　農業政策

環太平洋連携協定(TPP11)や欧州連合(EU)との経済連携協定(EPA)の最終合意に向けた動向など、国内農業を取り巻く情勢は依然先行きが不透明となっています。

また、米政策については、30年産米から米の直接支払交付金及び行政による生産数量目標配分の廃止、また、卸売市場法の見直し検討がすすめられています。

⑷　農協改革

本会は「農業競争力強化プログラム」を含めた「農林水産業・地域の活力創造プラン」を受けて作成したＪＡグループの自己改革を、引き続き農業者の所得向上および生産基盤の維持・拡大、ＪＡ経済事業の支援に資する施策を着実に実践することが求められます。

２．平成30年度 事業計画の基本方向

群馬県本部ではこのような情勢を踏まえ、経営理念に基づき、組合員・会員への最大奉仕と地域社会への貢献という使命を達成するため、県域としてＪＡグループの自己改革の着実な実践と①農業者所得の増大　②農業生産の拡大　③地域の活性化の「３つの基本目標」を達成するため、「５つの事業戦略」を明確化し、重点実施具体策を実施

します。

⑴　プロダクトアウトからマーケットインへの事業転換

ア．実需者ニーズに基づいた米の買取や麦の中期生産計画の策定等により、集荷・販売力を強化します。

イ．販売力を強化するため、消費者・実需者に支持される農畜産物づくりに向けた生産振興や青果物一次加工事業などに取り組みます。

ウ．多様な販売体制の確立・強化のため、事業環境の変化に対応した直販方式や品目を横断した総合販売体制を検討し確立します。

⑵　生産から販売までのトータルコスト低減の取り組み

ア．園芸作物生産実証農場において、県内主力作物等の農業経営モデルを構築し、安定的な生産体制を確立・普及します。

イ．労力軽減による生産と販売を充実するため、米のフレコン流通の推進や園芸の流通段階でのパッケージ機能を活用したバラ集荷・簡易規格等による販売等を拡大します。

ウ．物流合理化体制整備や肥料銘柄集約の取り組み強化と高品質・高収量化技術や低コスト資材・農機等の推進・普及により、生産コストの低減に取り組みます。

⑶　農畜産物生産に係る多様化する農業者ニーズへの柔軟な対応

ア．大規模農家・農業生産法人等の担い手ニーズに対応するため、ＪＡの出向く体制強化の支援や園芸作物生産実証農場での研修によりＪＡグループ職員の人材を育成します。

イ．農業者所得の増大を図るため、酪農畜産での生産寿命・繁殖能力を向上した凍結精液や耕種作物での多収性の新品種などを推進・普及します。また、県内の畜産生産基盤の維持・拡大対策として、酪農家の労働力軽減・役割分担による効率的な酪農肉牛事業を構築するため、育成牛センターで初妊牛の生産販売および採卵受精卵販売を実施します。

ウ．担い手への対応強化として、肥料の満車直送や地域に適したセルフブレンド、農薬の大型規格品目等を推進・普及します。

⑷　経済事業を通じた生活インフラ機能の発揮

ア．地域のニーズに合わせた小規模葬祭会館やセルフSSの設置を検討するとともに、災害時の石油類供給体制の強化と緊急対応設備の設置促進に取り組みます。

イ．ガスの保安対策強化として、高機能安全装置付ガス器具・機器や系統安全化システム（ガスキャッチ）の普及を図るとともに、保安点検調査を強化して組合員に安全・安心を提供します。

⑸　経営体質の強化

ア．業務内容の多様化・高度化に対応した、業務執行体制の合理化・効率化ならびに人材の開発と有効活用を図ります。

イ．事業環境の変化に対応した、事業関連施設の経営改善および統廃合を実施します。

Ⅳ. 部門別重点実施具体策

[JA群馬担い手サポートセンター]

[営農企画課]

１．農畜産物生産に係る多様化する農業者ニーズへの柔軟な対応

⑴　担い手への総合的な支援のため、事業提案や経営管理支援などの経営強化策をすすめます。

２．営農支援対策

⑴　地域農業振興を図るため、ＪＡ農畜産物の生産販売計画の実践と目標達成に向けた取り組みを支援します。

⑵　高度化・専門化する担い手の課題への対応のため、ＪＡ営農経済部門の人材育成支

援に取り組みます。

[担い手支援課]

1．農畜産物生産に係る多様化する農業者ニーズへの柔軟な対応

⑴　担い手ニーズに対応するため、TAC活動などＪＡの出向く体制強化と担当者の育成を支援します。

2．大規模経営農家・農業法人等への対応強化

⑴　大規模経営農家・農業法人等への個別事業対応のため、ＪＡの総合事業を活かした事業提案や経営安定化への取り組みを支援します。

3．新たな担い手の育成・確保支援

⑴　新規就農者等の確保に向けた、ＪＡの研修会などの取り組みを支援します。

[生産対策課]

1．プロダクトアウトからマーケットインへの事業転換

⑴　加工・業務用野菜の生産拡大のため、関係機関・各部門との連携を図り、ＪＡの取り組みを支援します。

2．生産から販売までのトータルコスト低減の取り組み

⑴　園芸作物生産実証農場において県内主力作物等の農業経営モデルを構築し、安定的な生産体制を確立し普及します。

3．農畜産物生産に係る多様化する農業者ニーズへの柔軟な対応

⑴　園芸作物生産実証農場での研修によりＪＡグループ職員の人材を育成します。

4．野菜の生産拡大に向けた振興対策

⑴　野菜の生産拡大のため、関係機関・各部門との連携を図り、ＪＡの野菜振興のための取り組みを支援します。

5．農産物の安全・安心確保対策

⑴　安全・安心な農産物の生産体制の確立のため、ＪＡの生産履歴記帳推進ならびに残留農薬自主検査の取り組みを支援するとともに、GAPの実践に向けた人材育成に取り組みます。

[畜産農産部]

[酪農畜産課]

1．生産から販売までのトータルコスト低減の取り組み

⑴　集送乳合理化対応による酪農家所得増大のため、稼働した県央CSの機能を充実させ、更なる合理化を検討します。

2．農畜産物生産に係る多様化する農業者ニーズへの柔軟な対応

⑴　生産寿命・繁殖能力の向上のためCRI凍結精液の販売を推進します。また、同精液で作成したホルスタイン雌受精卵の販売を推進します。

⑵　搾乳牛・繁殖和牛を増頭するため、管内空牛舎の再活用として、酪農ヘルパーと業務提携し哺育センター(キャトルセンター)の設置を検討します。

⑶　県内の畜産生産基盤の維持・拡大対策として、酪農家の労働力軽減・役割分担による効率的な酪農肉牛事業を構築するため育成牛センターで、初妊牛の生産販売および採卵受精卵販売を実施します。

⑷　多産系ハイコープ種豚の普及・拡大および同種の精液を推進するとともに、同生産豚の飼養管理技術を指導します。

3．家畜市場

⑴　上場頭数増加のため、群馬県本部の飼養管理マニュアルの普及による均一化を図るとともに、他県本部等と継続して業務連携します。

⑵　乳用牛セリ市(臨時市場)の継続開催により、乳用後継牛の確保し、酪農生産基盤の維持・強化を進めます。

⑶　高額販売可能な優良血統若齢雌牛の集中

上場を推進します。
⑷　早期母子分離技術の導入により分娩間隔の短縮(産仔数増加)を推進します。
⑸　酪農事業と連動した哺育センター(キャトルセンター)機能を実践します。
⑹　家畜取引法を遵守し、労災事故防止を徹底します。
⑺　市場施設の改修等により利便性を高め、安定した購買者の確保並びに新規購買者を獲得します。

4．系統養豚生産基盤造成プロジェクト事業
⑴　東日本くみあい飼料(畜産経営研究所)へ事業移管した前橋農場(富士見)の健全運営を支援します。
⑵　利根沼田ドリームファームの生産成績を向上します。
⑶　ブランド豚(尾瀬ポーク)の販売推進を支援します。

[米麦特産課]

1．プロダクトアウトからマーケットインへの事業転換
⑴　実需者ニーズに基づき、買取等による迅速な集荷・販売体制を構築します。
⑵　県内向けの販売力強化のため、県産米商品の展開と広告宣伝を強化します。
⑶　米粉用米、加工用米・酒造好適米の販売強化のため、実需者確保による生産を維持します。
⑷　飼料用米安定的供給体制を構築します。
⑸　麦需要に応じた生産強化のため、中期生産計画の策定と適正単収を設定します。また、地方連絡協議会・意見交換会・実需者巡回等による需要把握に基づき生産を確保します。
⑹　高品質麦の安定生産に向けた取り組み強化のため、生産者に対する契約の確実な実行と栽培技術指導を実施します。また、担い手の育成により作付を維持･拡大します。
⑺　袋資材の提案力強化のため、フレコン等流通実態にあった資材を推進し、新JIS規格対応の輸入フレコンの取り扱いを拡大します。
⑻　こんにゃく販売先の多様化に対応するため、「生ずり」用途向けの生玉販売を強化します。また、年間販売体制の構築を目指したＪＡ加工施設の改善を提案します。

2．生産から販売までのトータルコスト低減の取り組み
⑴　米穀の多様な集荷方法の強化のため、フレコン流通の推進やＪＡと連携した庭先集荷の推進を実施します。
⑵　袋資材の調達コスト低減のため、米紙袋の早期予約取り引きを拡大します。
⑶　こんにゃく輸送コスト削減の推進のため、直搬入取り引きを拡大します。
⑷　こんにゃくの年間平均販売による有利販売を実施するため、荒粉・精粉の加工を推進します。

3．農畜産物生産に係る多様化する農業者ニーズへの柔軟な対応
⑴　水稲の多収性業務用品種等の新品種を導入します。
⑵　麦類産地育成対策のため、「ゆめかおり」「アスカゴールデン」等を普及・定着推進します。
⑶　大豆生産者の大型化への対応のため、「里のほほえみ」等の新品種を栽培実証により導入を推進します
⑷　多様なこんにゃく生玉の取り引き方法の実施により、ＪＡ・本会の共販率向上と価格形成力を強化します。

[園　芸　部]

[園芸販売課・販売促進課]

1．プロダクトアウトからマーケットインへの事業転換
⑴　加工業務向け販売の強化
ア．青果物一次加工事業を通じた販売力強化を図るとともに、卸売市場との連携による加工業務向けＧルート販売(契

約的取引）の拡充強化を図り、農業所得の安定化に取り組みます。

イ．青果物一次加工事業を基軸とした生産振興に取り組み、県産原料の周年供給体制を確立します。

ウ．他県本部・県連と連携し、県域を越えた産地間リレー販売により系統組織としての周年安定供給体制を確立します。

⑵　直販事業の強化

ア．実需者への直接販売を拡充強化し、全農直販施設（ＪＡ全農青果センター等）と連携した付加価値を高めた販売を強化します。

イ．業種別・用途別の販売先の市場調査および販売提案などによる営業活動を強化し、取引を拡大します。

２．生産から販売までのトータルコスト低減の取り組み

⑴　労力軽減のため、販売先に対し簡易な出荷形態での販売を提案します。また、流通段階でパッケージ機能を活用し、バラ集荷・簡易規格等による販売を拡大します。

⑵　物流の合理化によるコスト低減のため、地元市場を活用した遠隔地向け販売を拡大します。

３．農畜産物生産に係る多様化する農業者ニーズへの柔軟な対応

⑴　農業者メリットのある販売提案に取り組みます。

ア．契約販売により所得の安定化と販売先確保に取り組みます。

イ．周年を通した安定出荷・価格の販売や出荷形態・荷姿・規格等付加価値をつけた販売を提案します。

ウ．労力軽減につながるＪＡパッケージセンターを活用した商品を提案します。

⑵　販売先と産地双方からの企画提案を進め、パートナー店等の連携強化を図ります。

４．Ｇルート販売の拡充強化

⑴　Ｇルート販売拡大により取引の安定化と販売先確保に取り組みます。

⑵　加工業務向け青果物の生産振興を、契約取引提案により支援します。

⑶　系統外生産者・生産法人等に対し、安定価格・周年出荷体系等メリットある販売先を提案します。

５．卸売市場販売の拡充強化

⑴　産地競争力強化に向け、系統共販体制ならびに共同計算販売を拡充強化します。

⑵　卸売市場との連携により加工業務実需者のニーズを把握し、販売力を強化します。

６．関連情報の収集と発信

⑴　安全・安心に関する情報の定期的発信を行います。

⑵　新品種･新規品目･新規出荷形態（荷姿）に関する情報提供を実需者に対し行います。

⑶　他産地の生産状況や販売戦略の動向、消費地の流通販売動向の情報を発信します。

７．制度野菜事業の拡充と効果的活用

⑴　適正な交付予約および効果的な事業実施により、農家経営の安定化を支援します。

⑵　関係機関との連携・協調により、需給調整事業の効果的かつタイムリーな実施に取り組みます。

８．生産振興対策

⑴　担い手サポートセンターおよび県行政と連携し、生産基盤強化を販売面から支援します。

９．消費宣伝の強化

⑴　県行政との連携により､県産青果物および花きの消費宣伝事業の拡充強化を図ります。

⑵　食品メーカー・異業種との共同企画による効果的な消費宣伝を実施し、県産青果物の利用促進を図ります。

⑶　パートナー店との連携強化において、状

況に即した迅速な消費宣伝の実施、年間を通した商品供給による売り場の確保に取り組みます。

[園芸資材課]

1．プロダクトアウトからマーケットインへの事業転換

⑴　消費地需要にあった新商品の提案・取り組みとして、SRP(楽らくボックス)段ボールを取り扱います。

2．生産から販売までのトータルコスト低減の取り組み

⑴　施設園芸の高品質・高収量化技術の提案・取り組み

ア．炭酸ガス施用技術やドライミスト発生装置等の施設内湿度管理方法、省力的な地下部環境制御技術を検討・実証します。

イ．トロ箱溶液栽培システム「うぃずOne」を普及します。

3．農畜産物生産に係る多様化する農業者ニーズへの柔軟な対応

⑴　全国需要結集による価格低減として、全農オリジナル商品(クラフト・OPPテープ等)を提案・推進します。

4．販売事業との連携強化による出荷資材の規格統一や開発・普及提案

⑴　全国需要結集品を提案し、普及します。

⑵　系統パイプハウス補償制度の活用によりシェアをアップします。

5．品目選定と重点的な推進による事業拡大

⑴　戸別推進によりハウス被覆資材やマルチなどの農業資材の取り扱いを拡大します。

⑵　適正包装等の提案により、段ボール資材の取り扱いを拡大します。

⑶　花卉種苗の取り扱いを拡大します。

6．低コスト資材･環境問題に対応する資材等の事業拡大

⑴　生分解マルチ・省エネ資材などの農業資材の取り扱いを拡大します。

⑵　輸送コストの低減を図るため、加工業務向けの鉄製コンテナなどの大型包装資材の取り扱いを拡大します。

⑶　新形状・省力型・低コスト原紙などの段ボール資材の取り扱いを拡大します。

7．ＪＡ担当者への推進力強化

⑴　ＪＡ別資材担当者研修会等を実施します。

⑵　系統園芸用パイプハウス補償制度を普及推進します。

[生産資材部]

[花木流通センター]

1．プロダクトアウトからマーケットインへの事業転換

⑴　顧客ニーズに応えるため、顧客年齢層(50～70代)に合わせた商品をセレクトし、企画・提案します。

2．農畜産物生産に係る多様化する農業者ニーズへの柔軟な対応

⑴　農産物直売の出荷者の確保

ア．近隣ＪＡへの働きかけと説明会を開催します。

イ．既存出荷者へ希少品・差別化品の生産を依頼します。

ウ．生産者組織を有効活用(フェア・イベント等)します。

3．経営体質の強化

⑴　収益の確保のため、粗収益率の高い農機・園芸農薬等の取扱高を拡充します。

⑵　費用の削減のため、嘱託・技能職の積極的登用、臨時職の効率的勤務体制の確立等により、人件費を削減します。

4．花木流通センターの再開発および事業拡大

⑴　新鮮で安全・安心な農産物を消費者に届けるため生産履歴制度の確立とともに、産

直農家及び県内各産地から集荷による産直店舗の取り扱い高拡大と新規取り扱い商品（食肉商材・ベーカリー・イートイン等）ならびに新形態で経営内容を充実します。

⑵　花木流通センターを機軸とし、生園芸の内容充実と資材等の大量購買のメリットを活かし、仕入体制を強化し、生産資材店舗等への有利性を発揮し、事業を拡大します。

5．愛菜館の業務改善

⑴　消費者が安心して購入するための食品表示徹底と接客体制を改善します。

6．地域農業の支援者の拡大

⑴　収穫体験農場で栽培講習会・収穫体験・親子食育教室などを実施し、消費者とＪＡグループ・生産者の接点を深め、地域農業の支援者を拡大します。

[肥料農薬課]

1．生産から販売までのトータルコスト低減の取り組み

⑴　低コスト・省力商品の開発と普及

ア．国内の地域資源を活用した鶏糞燃焼灰入り銘柄や混合堆肥複合肥料を推進します。

イ．新肥料原料を活用した価格抑制銘柄として、輸入被覆尿素・輸入硝酸化成抑制材入り尿素銘柄を推進します。

ウ．土壌中のりん酸、加里成分が十分ある場合に対応する肥料として、りん酸、加里の含量を下げたPKセーブシリーズを推進します。

エ．安価な輸入化成肥料の取り扱いを拡大します。

オ．農薬大型規格茎葉処理除草剤等の大型規格品を推進します。

⑵　担い手向けの肥料満車直送の拡大

ア．大型車を主体とした数量を拡大します。

イ．基肥用銘柄で500kgフレコンを実施します。

⑶　生産者ニーズに対応したＢＢ肥料の促進

ア．農家の要望と地域に適したセルフブレンド肥料を推進します。

イ．広域で供給するＢＢ肥料の新規取り扱いを協議します。

⑷　銘柄集約の取り組み強化

ア．国産化成（一般）肥料・配合肥料の銘柄集約を促進するため、県内の銘柄構成を踏まえた集約銘柄の検討と選定を実施します。

⑸　省力商品の肥効調整型肥料および育苗箱全量施肥銘柄、水稲除草剤省力散布技術を開発・普及します。

⑹　生産性向上に資する資材・技術の提案として、土づくり肥料を推進します。

⑺　生産資材総合推進による園芸分野事業の強化

ア．難防除害虫であるアザミウマ類、ハダニ類対策の代表的な天敵「スワルスキーカブリダニ」などの増殖資材「バンカーシート」を活用したIPM（技術総合的病害虫管理）を推進します。

2．農畜産物生産に係る多様化する農業者ニーズへの柔軟な対応

⑴　大規模営農モデル推進による担い手の経営改善

ア．農家手取りが最大となる営農モデルの構築と実証として、モデルＪＡの取り組みを実証実践します。

⑵　生産資材価格の「見える化」への取り組みとして、栽培歴・予約注文書の改善を支援します。

⑶　講習会等による人材育成支援として、各種講習会を開催します。

⑷　ＪＡ生産資材店舗の商品提案力向上のため、JA-POP甲子園や関東ディスプレイコンテストへの参加を促進します。

⑸　農家に選ばれる品質・価格の資材提供として、本会開発剤等の水稲除草剤のMY-100剤やAVH-301剤及びスプラサイド剤を推進します。

⑹　担い手への対応強化として、土壌診断の

実施・施肥改善の提案・堆肥分析による土づくりを支援します。

[農業機械課]

1．生産から販売までのトータルコスト低減の取り組み

⑴　機能を絞った低価格モデルトラクターの共同購入を展開し、農業機械コストの低減につとめます。

⑵　県本部推奨型式の普及拡大を図り、初期導入価格の引下げに寄与します。

⑶　「所有」から「共同利用」への転換

ア．大型コンバインのシェアリースを推進し、共同利用による生産コスト低減に寄与します。

イ．野菜作機械のレンタル事業を強化・拡大します。

⑷　中古農機査定士を軸に、中古農機流通拡大を進め低コストで良質な中古農機の流通拡大につとめます。

⑸　農業機械の長期利用による導入コスト削減と、農繁期マシントラブルの未然防止に寄与する、格納点検整備の拡充を図ります。

⑹　整備コストの低減を目的としたセルフメンテナンスを支援します。

2．経営体質の強化

⑴　農機サービスの安定的提供のため、JA・県域農機一体運営事業による経営基盤を強化します。

⑵　農機一体運営拠点を集約統合し、農機サービスの効率的な事業を展開します。

⑶　農機担当者の育成・若返りをすすめ、長期的な視点での農機事業の競争力強化を図ります。

[生　活　部]

[生　活　課]

1．組織購買事業の競争力強化

⑴　JA・組合員のエネルギー自給自足に貢献するために太陽光発電システムと蓄電システムを組み合わせた取り扱いを進めていきます。

⑵　安心･安全で旬な物を旬な時期に合わせ、品質・価格の安定供給を図り国産青果物の取り扱いを拡大します。

⑶　組合員等の資産保全を目的に、シロアリ防除事業・瓦補修事業への取り組みを強化します。

⑷　健康体感館・聞こえの相談会等の開設により、健康関連商品の取り扱いを拡大します。

⑸　直売所向け商品の供給体制を見直し、品揃えの充実と販促強化を進めます。

[葬祭総合課]

1．経済活動を通じた生活インフラ機能の発揮

⑴　地域のニーズに合わせた葬儀事業の展開として、小規模葬祭会館(遺体安置施設)の建設を検討します。

2．葬祭事業競争力強化

⑴　会員加入推進の取り組みや宣伝強化により、JA葬儀施行件数を拡大します。

⑵　施主花胡蝶蘭等の新アイテム提供の実施及び仕入れの見直し等により、生花の取り扱いを維持拡大します。

⑶　情報収集・提供の強化や未利用JAへの推進により、墓碑の取り扱いを維持します。

⑷　JA葬祭事業専門職員の育成を図るため、各種講習会・研修会を実施します。

⑸　JA葬儀事業の事務の効率化と経営管理強化を図るため、葬儀管理システム導入を推進します。

[施設住宅課]

1．系統施設建設事業の確立

⑴　施主代行の計画作成から設計・施工管理にいたる総合的機能を発揮し、低コストで合理的な施設建設に取り組みます。

⑵　JA等の既存施設の補改修等の提案を行い、施設の有効活用を進めます。

⑶　JAカントリーエレベーターの施設診断を行い補改修・機械の更新を提案します。

⑷　トータルコスト削減の観点から、農業施設の総合コンサルと複数JAによる計画的

な施設の集約・相互利用を進めます。

2．農住事業コンサル機能の強化

⑴　賃貸住宅の系統仕様基準をもとに、組合員に信頼される賃貸住宅建設に取り組みます。

⑵　組合員の資産活用に応えるため、相談会・相続対策セミナー・土地活用セミナーなどを積極的に開催するとともに、ＪＡの他部門との連携により情報収集を強化します。

⑶　宅地建物取引業法の一部改正（平成30年４月１日施行）に伴い、有資格者による既存住宅状況調査を積極的に提案・実施することにより、中古住宅の適正取引やリフォーム工事の円滑な推進に努めます。

⑷　賃貸住宅経営の長期安定のため、巡回点検による適切なリノベーション提案や管理会社との対策会議を定期的に開催し、入居率アップを図ります。

⑸　大手Webサイトへの空室物件を掲載します。

3．広域事業所の検討

⑴　北関東（茨城・栃木・群馬）広域施設農住事業所の組成に向けて検討します。

4．専門資格者の確保と育成

⑴　専門資格者（一級建築士・宅地建物取引士）の育成と確保を積極的に進め、事業主体が求める高度な技術と知識により施設建設に伴う管理業務と提案活動を実施します。

[自動車燃料部]

[石　油　課]

1．経済活動を通じた生活インフラ機能の発揮

⑴　JA-SSおよび配送施設の拠点再編として、セルフSSの設置促進を進めるとともに老朽化施設の施設改善への取り組みと他業種・行政等と連携した低コスト運営手法を研究します。

⑵　営農用燃料の取り組み強化として、免税軽油・営農用Ａ重油（国産Ａ重油還付）の新規利用を拡大します。また小口配送の合理化に取り組みます。

⑶　物流コストの低減と安定供給体制の確立として、配送施設の集約による配送効率化とコスト削減および災害時の供給体制の強化と緊急対応設備の設置促進に取り組みます。

2．経営体質の強化

⑴　JA-SSの運営体制の強化のため、スタッフを育成して現場指導を強化し、サービスの向上に取り組みます。

⑵　事業競争力の強化を図るため、競合SSとの差別化を図り、ＪＡ取り扱いシェアを拡大します。

3．自動車整備事業の強化

⑴　連合会職員・関連会社職員へ車検入庫促進策を実施します。

⑵　SSとの連携により新規車検の獲得に取り組みます。

⑶　業務用車両の定期点検入庫を促進します。

⑷　ハイブリッド・電気自動車を含む整備技術の向上を図り、安全・安心・信頼されるアフターサービス体制の構築に取り組みます。

4．自動車販売事業の強化

⑴　関連会社・取引先業務用車両を推進します。

⑵　連合会の職員および関連会社の社員へ車両を推進します。

⑶　ユーザーニーズに応えられる中古車取り扱い体制を構築します。

[ガ　ス　課]

1．JA-LPガスグループ全体の保安強化

⑴　保安対策の強化として、高機能安全装置付ガス器具・機器を普及促進します。

⑵　系統安全化システム（ガスキャッチ）の普及拡大により保安を高度化し、保安サービスと信頼の向上・他業者との差別化・システム全体のコスト削減を図るとともに保安点検調査を強化し組合員に安全・安心を提

供します。
⑶　ＪＡ販売所に対し保安業務指導を計画的に実施し、法令遵守の徹底と保安業務の高度化を図ります。

２．取り扱い数量の維持拡大
⑴　他業者切替防止対策を強化し、家庭用需要を維持します。
⑵　家庭用・業務用燃転活動の取組み強化により取扱数量の拡大を図ります。

３．営農支援の強化
⑴　ＬＰガス光合成促進機の普及拡大を図り、生産物の品質向上の支援に取組みます。
⑵　加温機等の燃料転換を実施し、施設園芸の省エネ化とコストメリットを図ります。

４．新たな事業体制の整備
⑴　小売機能強化に向けた県域直売体制を構築します。

[管　　理]

[コンプライアンス推進課]

１．コンプライアンス推進態勢の充実
⑴　コンプライアンス意識の向上対策の取り組みとして、コンプライアンス推進全体職員研修会(年２回)を実施します。また、全国本部と連携しながら研修等を通じて関連する法令への知識と理解を深め、適正に事業に取り組むとともに、コンプライアンス意識調査結果に基づく職場改善を進めます。

２．リスク管理態勢の強化
⑴　重点管理すべきリスクへの対応強化として、労災防止・交通安全に係る啓発と対策強化に向けた取り組みやリスク事案発生部署の巡回指導・現金管理状況の確認・個人情報管理に係る取り組みを強化します。
⑵　食品の適正表示の徹底のため、食品表示に係る巡回指導・検証(県本部該当部署・食品取り扱い子会社)・同業種拠点における食品表示管理業務の相互検証・リスク事案発生部署を巡回指導します。

３．子会社等の管理態勢の強化と経営強化対策
⑴　会社内のガバナンス強化のため、定時株主総会・取締役会の適正な運営のための会社管理部署の指導や、常勤監査役および認定監査主任者との連携による適切な取締役業務執行の補佐・内部統制システム構築を支援します。
⑵　的確かつ効率的な事務処理を目指すため、関連事業担当者研修を開催します。

[企画経理課]

１．情報の収集・発信
⑴　各事業部門との連携により、情報誌の内容の充実とホームページ・新聞等を積極的に活用した情報を収集・発信します。
⑵　各種イベントや情報誌を通じ、県産農畜産物のPRと情報収集・提供に努めます。

２．経理業務の現業サポート強化
⑴　業務の適正化を図るため、規定・規則・細則・要領等に則った経理処理を徹底します。
⑵　適正な現金管理を指導するため、現金の取り扱い部署を巡回します。
⑶　的確かつ効率的な事務処理を目指すため、経理関係研修会を開催します。

[物流対策課]

１．生産から販売までのトータルコスト低減の取り組み
⑴　ＪＡグループ物流コスト削減の取り組みとして、県域物流未実施ＪＡへの参画を推進します。
⑵　県域物流未実施ＪＡの物流合理化を支援し、県域物流との県内ＪＡ物流ネットワークの構築を目指します。
⑶　県域を越えたブロック域での取り組みとして、全国本部関東広域肥料農薬拠点(仮称)の早期設置に向けた取り組みや県本部

内物流実態調査を基に県本部部門間配送品集約を実施します。

2．県域物流実施ＪＡの経済事業改革支援

⑴　県域物流実施ＪＡの物流コスト定期調査や配送実績・配送スケジュール等の物流管理を徹底し、配送効率化によりコスト低減します。

⑵　県域物流実施ＪＡの更なる合理化のため、経済事業改革を支援します。

[総務人事課]

1．経営資源の有効活用

⑴　必要な施設投資と資産の有効活用をはかります。

2．過重労働による健康障害防止

⑴　過重労働の抑制と職員の健康管理対策に取り組みます。

[JA総合課]

1．プロダクトアウトからマーケットインへの事業転換

⑴　多様な販売体制の確立・強化

ア．事業環境の変化に対応した直販方式やIT活用、品目を横断した総合販売体制を検討し確立します。

イ．県内ＪＡ産直取引の提案品目の拡充・販売拡大や群馬県産農畜産物・加工品の認知度向上に取り組みます。

2．会員ＪＡ等に対する総合窓口担当業務の取り組み強化

⑴　ＪＡに対する連絡・調整・相談業務を強化します。また、ＪＡ経済事業推進協議会活動と営農指導員連盟との連携による経済事業活動を強化します。

⑵　ＪＡの情報を収集・調査して、関係部門に正確かつ迅速に報告し本会事業に活用します。

⑶　ＪＡ及び関係機関の各種催事等に参画します。また、行政機関と連携したＪＡ事業への取り組みを強化します。

第25回群馬県枝肉共励会　授与式

■ぐんまふれあいミートフェスタ（肉豚の部）

２月19日（月）～21日（水）、群馬県食肉品質向上対策協議会主催による「第25回群馬県枝肉共励会（肉豚の部）」が㈱群馬県食肉卸売市場において開催されました。県内の生産者135名から出品された270頭の中から、雌１頭・去勢１頭を１組として審査が行われました。厳正な審査により決定した入賞者は、21日（水）に行われた褒賞授与式において表彰されました。名誉賞には、「外見・肉質ともに良好で肋張りに富み、キメ・締りが良好で総合的に優れている」と評された岡部雄太さん（榛東村）が選ばれました。

平成29年度　群馬県農機事業経営委員会

■農機事業の更なる強化に向けて

２月22日（木）、農業機械課は「平成29年度 群馬県農機事業経営委員会」を開催し大澤会長をはじめ、県内ＪＡ組合長・理事長及び当県本部関係役職員が出席しました。本経営委員会は、平成20年の「農機協同事業体」発足以来、10回目となります。当日は「平成29年度事業報告」・「平成30年度事業計画」・「契約書の締結」・「役員の選任」についての協議が行われ、全て可決承認されました。また、ＪＡ全農は、生産現場からの声を反映したトラクターの開発をメーカーに要求しました。事前申込みで大量・一括購入することでより安く供給するため、共同購入を呼びかけました。

平成29年度　肉用牛合同研修会

■模範的な肉牛経営を学ぶ

３月２日（金）、（公社）群馬県畜産協会・（一社）家畜改良事業団前橋種雄牛センター・各種協議会・当県本部共催の「平成29年度 肉用牛合同研修会」が開催され、生産者やＪＡの畜産担当者約240名が参加しました。第１部では各団体による事業・情勢報告等が行われました。第２部では家畜改良事業団の寺島アドバイザーを講師に招き、「俵牛づくりに挑戦しよう」、続く第３部では、全国和牛登録協会鹿児島県支部の坂元副支部長を講師に招き「鹿児島県における和牛の現状と全国和牛能力共進会の対応について」の講演が行われました。

平成29年度　石油事業一体化経営委員会

■サービス向上とシェア拡大へ

３月15日（木）県内ＪＡ組合長・理事長及び当県本部の関係役職員参集のもと、「平成29年度 石油事業一体化経営委員会」が開催されました。会場では、「平成29年度事業報告」・「平成30年度事業計画」・「覚書の締結」・「平成30年度役員体制」についての協議が行われ、全て可決承認されました。大澤会長は挨拶で「ＪＡ－ＳＳの拠点再編とセルフＳＳの設置を促進し、健全経営を目指すとともに、ＪＡ自己改革の実践方針に基づき、地域社会づくりへの支援や営農用燃料のコスト低減に取り組みます」と意気込みを話しました。

生活課 食品提案会

▲提案会場の様子

２月23日(金)、生活課はＪＡビルにおいて「生活課食品提案会」を開催し、企業・団体16社が出展しました。会場には、エーコープマーク品・全農ブランド品を中心としたオリジナル商品、加工品・販促資材などの商品が多数並び、担当者による商品説明や新規商品の提案、試食提供を通じて来場者に魅力をPRしました。訪れた直売所関係者やＪＡ女性部の方たちは、熱心に各ブースを回り、様々な商品に興味津々の様子でした。

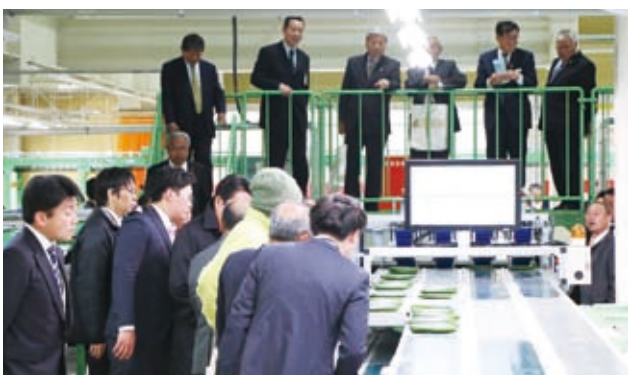
▲ずらりと並ぶ
エーコープマーク品

薮塚こだま西瓜消費宣伝試食会

３月１日(木)、ＪＡ太田市の「薮塚こだま西瓜」が大田市場で初荷を迎えることから、東京青果㈱で試食会が開催されました。「薮塚こだま西瓜」は、シャリシャリとした食感と強い甘味を持ち、手ごろなサイズながら皮が薄く身が詰まっているのが特徴です。試食宣伝では、ＪＡ太田市スイカ部会の役員やＪＡ役職員、太田市職員等がカットしたこだま西瓜を市場関係者や卸売業者等約300人へ配布しました。ＪＡ太田市野菜センター運営委員会の羽鳥委員長は「今年は低温や天候不順で、栽培に大変苦労したが、生産者の努力により例年になく美味しいこだま西瓜が出来たので、是非召し上がってほしい」とこだま西瓜の魅力を語りました。試食会が始まると、あっという間に人だかりができ、「毎年美味いが、今年は特に美味しい」、「こんなに甘い西瓜は食べたことがない」と大好評でした。

◀カットしたこだま西瓜を配布

JA前橋市きゅうり・なす選果場 竣工式


▲電通式後、試運転を見学

３月12日(月)、「ＪＡ前橋市きゅうり・なす選果場 竣工式」が執り行われ、設計及び施主代行を務める当県本部関係者も出席しました。ＪＡ前橋市は農業生産の拡大を実践するため、生産者の労働力の軽減支援として、平成29年度産地パワーアップ事業を活用し、選果場を新設しました。利用者数は、きゅうり75名、なす51名。今後この選果場を利用することで、消費者へ安全安心で高位平準化を図った品物を供給し、併せて出向く営農を実践し、営農指導体制を充実させ、良品質な品物を出荷することで農業者の所得増大に繋げます。

群馬県青果物販売促進会議

３月12日（月）、県・群馬県園芸振興協議会・当県本部共催の「群馬県青果物販売促進会議」が開催され県内各ＪＡ・関連団体・全国主要青果物卸売会社・流通関係者等約200名が参加しました。近年の青果物を取り巻く環境は、生産面では従事者の高齢化や後継者不足、遊休農地増加や天候の不安定などが顕著となっています。また販売面においても実需者ニーズの多様化への対応など産地における対応強化が進むものの、成果としての販売単価においてはその対価が得られているとは言い難い状況にあります。こうした状況を踏まえ、関係機関の連携により生産振興及び生産・流通・販売体制の強化を図ることを目的にこの会議を開催しました。当日は、優良販売会社並びに実需者の表彰や、本県の園芸振興対策と平成30年度青果物生産出荷基本計画についての説明、プロゴルファーの牧野裕氏による講演会が行われました。

▲挨拶をする大澤会長

▲優良卸売会社の表彰

第12回ＪＡグループ国産農畜産物商談会

３月14日（水）・15日（木）の２日間、東京国際フォーラムにおいて「第12回ＪＡグループ国産農畜産物商談会」が開催されました。これは、食品会社やバイヤーに向け、地域色溢れた商品を宣伝し、販路拡大を図ることを目的に毎年開催されているものです。今回ＪＡグループ群馬からはＪＡ前橋市・ＪＡ佐波伊勢崎と群馬県食肉品質向上対策協議会が出展。ＪＡたかさき・ＪＡはぐくみ・ＪＡたのふじは高崎市のブランド「高崎そだち」として参加し、ＪＡ上野村も出展しました。各ＪＡの農畜産物加工品を始め、当県本部青果物一次加工センターの半割芯取りキャベツや上州牛、まえばし麦豚など自慢の商品を豊富に用意し、試飲・試食を通し、積極的に魅力をＰＲしました。バイヤーからの評判も良く、昨年を上回る商談がありました。

▲半割芯取りキャベツを説明

◀オープニングセレモニーの様子

◀ＧＴＶ「みどりの風」のインタビューに答える担当者

JA みどりの風 放映予定

GTV 48ch 放映のお知らせ

番組名／提供	放送日 ※再放送日	時　間
行楽シーズン！旬を探しに出かけよう ／JA群馬中央会	4月16日(月)	PM9:00～9:30
	※4月22日(日)	AM8:00～8:30
魅力満載！春の花木流通センター ／JA全農ぐんま	4月23日(月)	PM9:00～9:30
	※4月29日(日)	AM8:00～8:30

矢田　優季アナ

農業チャレンジャー

たくさんの情報の中から、自分に合った酪農経営を

JA碓氷安中東部支所管内　**白石　哲 さん**

就農のきっかけ

今回の農業チャレンジャーは、JA碓氷安中東部支所管内で酪農を営む白石さんです。

両親からは農業を継いでほしいと言われたことがなく、高校を卒業後は、精密機器メーカーに勤務していました。サラリーマンとして働いて、改めて農業の魅力に気付き、22歳の時に家業である酪農を継ぐことを決意したそうです。「今の生活スタイルは気に入っています。搾乳機器が壊れたら、夜中でも明朝までに修理しなければならないし、毎日やらなければならないこともあるけれど、仕事を調整して自由な時間をつくることもできます」と話してくれました。

シンプルな酪農経営

とてもシンプルな酪農経営を行っているという白石さんは、「安中地区では早い時期からホルスタインと和牛を掛け合わせた交雑種を生産しています。和牛ほど高値ではありませんが、適度にサシが入っていて一般的な国産牛より割高で売ることができます。それをもとに後継牛は、ホクレン乳用牛市場から分娩予定が２ヶ月前のホルスタインの初妊牛を年間10頭から12頭を購入する導入型の経営を行っています。ホルスタインの雌が産まれたとしても搾乳できるのは２年先ですから、導入型は回転が良いのですが、今は子牛の高値に連動した初妊牛価格が高く苦慮しているところです」と話します。

振興作物『プチヴェール』の収穫体験を提案

白石さんはJA碓氷安中青壮年部会長を務めて今年で６年目になり、年々行事を増やしているそうです。「昨年、『プチヴェール』の収穫体験を提案し、学童クラブの小学生約20名に実施しました。『プチヴェール』は安中の振興作物のひとつで、芽キャベツとケールを交配した野菜です。酪農青年部では、教育委員会を通じて希望を確認し、市内の幼稚園や保育園、小中学校に年２回、無料で堆肥を配っています」と地域に根付いた活動を行っています。

今後について伺うと、「まずは、情報を得ることが大切だと思っています。そのために研修会や勉強会に積極的に参加し、いろいろな情報を集めて、その中から自分に合っているものを選んで実行していきたい。あとはこの仕事をしながら、日々の小さな出来事に一喜一憂して、それを楽しみたい」と語ってくれました。

毎日の作業を楽しみながら酪農を営み、地域に貢献する白石さんに、今後さらなる活躍が期待されます。

Profile

白 石　哲（しらいし・てつ）さん

1979年生まれ　38歳

JA碓氷安中青壮年部会長を務める

JA碓氷安中酪農青年部所属

飼養頭数

搾乳牛 …… 50頭

休日の過ごし方：ゴルフ

好きな食べ物：唐揚げ

1 牛に干草を与える白石さん

2 バルククーラーまで直接運ばれる搾乳機器を説明してくれました

3 出産を控え、別の牛舎に移された妊娠牛

4 牛舎でＪＡ碓氷安中営農経済課多胡課長と

がんばってまーす！

「入組6年目、畜産農家の所得向上に尽力したい」

JA前橋市　畜産部　畜産振興課
鈴木（すずき）　亮（りょう）さん

Profile

鈴木　亮（27歳）
すずき・りょう

趣味……アメリカンフットボール
（得意技：タックル）
好きな食べ物……米・牛乳

●職場の皆さんからみた鈴木さん
「酪農関係を中心に担当し、組合員さんからの信頼も厚く、頼りにされています。一生懸命取り組んでいますので、今後もさらに組合員さんに頼りにされる職員になってもらいたいと思います。」

▲群馬スタリオンズ試合の様子
緑のユニフォームが鈴木さん

――現在入組何年目ですか？

入組して６年目です。実家が兼業農家で農業に携わった仕事がしたいと思い、東京の大学を卒業後、ＪＡに就職しました。

――実際に働いてみていかがですか？

入組前は、野菜の出荷がメインというイメージが強かったですが、畜産部に配属になり、前橋の農畜産物で畜産物が占める割合が大きいことを知りました。改めて普段食べている豚肉や牛肉、牛乳に興味を持つようになりました。

――現在のお仕事内容について教えて下さい。

畜産振興課で酪農を担当しています。具体的には、牛の運搬や大胡・木瀬地区の酪農部会と前橋市全体の部会の事務をやっています。

――心掛けていることは何ですか？

農家さんが困ったときや質問があったときには、いつも精一杯対応させていただきたいと考えています。

――力を入れて取り組みたいことは？

酪農の先輩である農家さんのお話を聞いたり、メディアや資料などから情報を取り入れて、より良い情報を農家さんに提供できるようにしていきたいです。

――休日はどのように過ごしていますか？

「群馬スタリオンズ」というアメリカンフットボールのクラブチームに所属しています。３月からシーズンインで、休日は試合や練習をしています。

――アメフトはいつから？

大学の時に始めました。就職して２年目頃、農家さんの先輩が所属していたクラブチームが群馬県内にあるから行ってみたらどうかと、農家さんよりお声掛け頂いたことがきっかけで、また始めました。

――今後の意気込みをお聞かせください。

農家さんは私がＪＡに就職する前からずっと酪農をやられていますので、いろいろな情報をもらえますし、農家さんが持っている情報量に負けないくらいの情報を持っていなければいけないと思います。良い情報を農家さんに提供し、農協職員として、畜産農家さんの所得向上に少しでも力添えできるように頑張りたいです。

―鈴木さん、これからも畜産農家の方々のために頑張ってください。ありがとうございました！

畜産ダイジェスト

肉牛情勢

肉牛実績

（瑕疵抜き税込）（単位：円）

月			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
上場頭数（単位:頭）		平成27年	1,109.0	778.0	745.0	903.0	791.0	973.5	866.5	1,114.0	1,271.5	808.0	670.0	801.0	10,029.5	880.9
		平成28年	1,051.5	754.0	836.5	800.5	700.0	878.5	839.5	1,161.5	1,270.0	653.0	698.0		9,643.0	876.6
黒毛和種（去）	A5	平成27年	2,937	2,958	2,886	2,896	2,843	2,772	2,836	2,938	3,055	2,906	2,823	2,809		2,904
		平成28年	2,882	2,869	2,867	2,828	2,909	2,783	2,860	2,859	2,920	2,858	2,756			2,861
	A4	平成27年	2,734	2,733	2,653	2,631	2,587	2,553	2,608	2,675	2,645	2,583	2,568	2,491		2,634
		平成28年	2,632	2,559	2,469	2,511	2,492	2,371	2,422	2,501	2,561	2,457	2,460			2,502
	A3	平成27年	2,514	2,525	2,393	2,356	2,371	2,322	2,372	2,411	2,261	2,304	2,214	2,119		2,362
		平成28年	2,279	2,263	2,129	2,125	2,034	2,039	1,982	2,133	2,337	2,123	2,094			2,135
	A2	平成27年	2,332	2,304	2,184	2,154		2,002	2,138	2,047	1,955	2,053	1,791	1,947		2,088
		平成28年	2,002	1,733	1,750	1,823	1,754	1,690	1,744	1,791	1,796	1,721	1,874			1,771
交雑種（去）	B5	平成27年	2,126		2,052						2,174			2,100		2,124
		平成28年	1,966			1,943		1,939		2,077	1,979	1,934	1,808			1,961
	B4	平成27年	1,902	1,892	1,844	1,914	1,916	1,920	1,938	1,942	2,015	1,867	1,836	1,819		1,910
		平成28年	1,760	1,793	1,798	1,813	1,871	1,779	1,824	1,794	1,801	1,672	1,679			1,777
	B3	平成27年	1,742	1,719	1,710	1,755	1,754	1,742	1,760	1,754	1,760	1,710	1,676	1,637		1,739
		平成28年	1,615	1,589	1,591	1,623	1,663	1,544	1,595	1,580	1,565	1,502	1,441			1,576
	B2	平成27年	1,602	1,588	1,557	1,582	1,584	1,607	1,583	1,549	1,509	1,504	1,398	1,389		1,556
		平成28年	1,318	1,246	1,237	1,308	1,406	1,247	1,216	1,275	1,261	1,257	1,239			1,275

3月　渋川家畜市場市況

㈱群馬県食肉卸売市場　肉牛課

区分	性	出場頭数	成立頭数	高値価格	安値価格	平均価格	平均体重	平均日令	平均単価
子牛	雌	88	87	1,168,560	335,880	620,503	289	293	2,144
	雄								
	去	145	142	1,391,040	336,960	788,643	317	289	2,480
	計	233	229	1,391,040	335,880	724,764	307	291	2,360
成牛	雌	8	5	722,520	416,880	594,000	495	2,574	1,199
	雄								
	去								
	計	8	5	722,520	416,880	594,000	495	2,574	1,199
若齢	雌	3	3	587,520	378,000	466,200	144	139	3,237
	雄	7	7	718,200	466,560	558,668	162	129	3,442
	去								
	計	10	10	718,200	378,000	530,928	156	132	3,386
合　計		251	244	1,391,040	335,880	714,141	304	331	2,343

養豚情勢

肉豚実績

（税込）（単位：円）

月			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
総と畜合計（単位：頭）		平成27年	40,481	35,948	37,630	35,502	37,818	39,656	40,977	43,339	43,106	41,406	37,917	42,446	476,226	39,435
		平成28年	38,054	39,999	39,189	34,496	39,588	39,278	42,642	44,124	42,796	41,252	38,730		440,148	40,013
群馬	極上	平成27年	495	565	609	558	501	521	484	514	519	499	549	520		527
		平成28年	505	532	602	607	612	594	542	549	542	489	587			560
	上	平成27年	492	560	603	557	499	526	483	508	518	501	515	507		522
		平成28年	504	546	604	620	613	601	537	555	563	499	494			558
	中	平成27年	477	552	601	545	488	512	469	496	506	483	502	492		510
		平成28年	492	535	603	624	600	585	526	547	548	481	477			547
	並	平成27年	437	520	556	504	465	466	431	450	463	436	460	446		470
		平成28年	447	496	561	594	556	544	494	508	496	430	428			505
	等外	平成27年	339	377	392	388	362	361	346	339	335	315	306	299		351
		平成28年	291	297	350	400	370	355	323	331	311	298	272			327
	全体	平成27年	467	534	577	532	480	501	460	482	494	471	489	482		497
		平成28年	477	515	579	600	583	571	512	529	530	468	462			530

月平均は（総売上÷総重量）

㈱群馬県食肉卸売市場　肉豚課

JAピックアップ！

～群馬県内のJAの活動をご紹介～

JA赤城たちばな

個性いろいろ 女性部が寄せ植え

◀完成した鉢を手に、記念撮影

JA女性部は12月22日、八崎ふれあい館で寄せ植え講習会を開き、参加者34人は好みの鉢花を手がけました。

講習会は１年の締めくくりとして毎年恒例になっています。講師は雅園芸（高崎市吉井町）の吉田松代さん。吉田さんは寄せ植えで使う花の名前や特徴などを説明した後、見本として８種類の花をバランスよく鉢に置きました。「草丈の高い花をどの位置に置くかで、同じ花でも印象が変わります」と吉田さんは寄せ植えのコツをアドバイスしました。参加者は配置を考えたり、お互いの意見を聞きながら満足のいくように寄せ植えを行い、充実した講習会になりました。

雅園芸はシクラメンの生産農家で、毎年素晴らしいシクラメンの鉢を参加者に配布しています。参加者は寄せ植えとともにシクラメンもとても楽しみにしていて「家に持ち帰って大切に育てます」と笑みを浮かべていました。

JAたかさき

知恵と工夫が満載の生活作品展

◀知恵と工夫に感心する来場者

JAたかさき女性会は２月10日、本店で生活作品展＆バザーを開催しました。女性会員をはじめ200人を超える来場者で賑わいました。

生活作品展では、着なくなった衣服をリサイクルした作品や、地元の農産物を使ったオリジナルレシピなど、生活の知恵や工夫が詰まった手芸品や、農産加工品92点が出品されました。

組合長賞は手芸品の部で、古い着物をコートにリフォームした西部支部の岡田道子さんの作品が、農産加工品の部では、長野支部の中澤千恵子さんの、そばの実入りミートボールが受賞しました。

◀大盛況のバザー

場内では、朝市会がハクサイやホウレンソウ、JAの直売所が高崎産イチゴや高崎うどんを販売し会場を盛り上げました。

田口豊組合長は、「料理も力作がそろった。女性会として学校給食に結びつくような６次産業化に取り組んでもらいたい」と期待を込めました。

来場者には甘酒が振る舞われた他、会員より寄せられた農産物や衣服、生活用品などをバザーで販売し、待ちかねた来場者で黒山の人だかりとなりまた。売上金の一部は高崎市社会福祉協議会に寄付されます。

ＪＡにったみどり

◀見本を見て規格分けを説明する赤石次長と生産者

促成トマトの目ぞろえ会
トマト出荷規格変更　全員で確認

ＪＡにったみどりは、３月９日、みどり市の笠懸野菜集出荷所で促成トマトの目ぞろえ会を開き、生産者他関係者ら50人が参加しました。

園芸販売部の赤石知己次長は、出荷規格で無印・Ｂ品・Ｃ品の基準変更点を重点に説明。

「空洞果は発生力所の数で区別しない。角から凹んでいるものはＣ品とする。チャック果は、トマトの高さの半分や１・２本程度の本数とする」と訴えました。

ＪＡ全農ぐんま園芸販売課の宮内景太さんは、販売動向や今後の見通しを報告。長野県連合青果上田本社野菜部の堀内靖浩主任は「産地･全農との情報交換をもとに、増量期に向けてしっかり対応していきたい」と話しました。県東部農業事務所桐生地区農業指導センターの高川功主幹は、トマト灰色かび病、生理障害について説明しました。

出席した生産者は「初出荷は３月１日、天候の影響で１段目の玉は今年やや小ぶりだった。その後順調に生育しているので２～３段目以降期待がもてる」と意気込みます。

ＪＡ管内では笠懸地区を中心として、約48戸が促成トマト（加温、無加温）を栽培し、今年度５億2000万円の販売目標を目指しています。

ＪＡ利根沼田

▲ 班ごとに発表し聞き入る児童と青年部員

小学生が感謝を込めて発表
米づくりにチャレンジ発表会

沼田市立白沢小学校の５年生54人と４年生37人は３月16日、稲刈りや収穫の体験や感想等を発表する「米づくりにチャレンジ発表会」を授業の一環として開きました。米作りは農作業を通じて、学校生活の思い出を作ってもらおうと、ＪＡ利根沼田白沢青年部の部員らが協力し1983年から毎年続いています。

発表会は５年生の児童が、お米や田んぼについて不思議に思った題材同士で班を作りました。お米の歴史や種類・栄養などを調べた班や、田んぼの生物・環境などについて班ごとに発表すると、発表を聞いた青年部員や来年米作りを体験する４年生、保護者らは熱心に聞きいっていました。

また会場には、児童がお米のおいしさを伝えるために収穫したお米でにぎった具材選びから考えた約12種類のおにぎりが用意され、参加者は迷いながらも手作りの味を楽しんでいました。

白沢青年部副部長の小林秀一さんは「去年の長雨で農家でも米作りが大変だったが無事にお米がたくさん取れた。お米についてたくさん勉強して理解して、ご飯好きが増えればと思う」と話し、発表の効果を期待しました。

花木流通センター便り

花木流通センターの耳寄りな情報をお届けします！

春と言えば、園芸シーズンですね!!花･野菜･植木など様々なものが一気に成長する時期です。花木流通センターでは、いよいよ果菜苗が販売されます。国府果菜苗組合による徹底管理の元、他の一般的な苗の品質とは比べ物にならないほど立派な苗が店頭に並びます。定番のものから、新品種まで幅広く毎年販売しております。初心者の方でも失敗しない苗を是非皆様に試していただきたいと思います。収量、味、苗の丈夫さに驚いてください!!

皆様のご来店心よりお待ちしております。

4月の売出し･イベント案内

色々な売出しやイベントが目白押し。ぜひお出かけください！

開催日	内　容
4月7日(土)・8日(日)	春一番園芸フェア
4月13日(金)～16日(月)	第一弾！春の菜園フェア
4月21日(土)22日(日)	第二弾！春の菜園フェア
4月28日(土)～5月6日(日)	GW菜園フェア

～講習会等～

開催日	内　容
4月1日(日)	栽培講習会「里芋・しょうが・とうもろこし・枝豆・落花生」
4月7日(土)・8日(日)	栽培講習会「なす・きゅうり・トマトの定植」管理機講習
4月15日(日)	栽培講習会「里芋・生姜」
4月22日(日)	栽培講習会「なす・きゅうり・トマトの定植」管理機講習
4月7日(土)	バラ仕立て方講習会
4月20日(金)	洋ラン植え替え講習会

～クッキングサポート～

開催日	内　容
4月21日(土)	食肉卸売市場試食販売

※売出し・イベントの日程・内容は変更になる場合があります。

暮らしをもっと花やかに

KABOKU 花木流通センター

営業時間:年中無休/9:00～18:00

（節電のため7月～2月毎週火曜日定休）

取扱商品

■園芸資材館/営農･園芸資材等 ■ふらわーらんど/鉢花､花苗等 ■JA植木コーナー/緑花木､盆栽等 ■エクステージ/外構･造園工事等 ■ブランド野菜館/産直野菜､農産加工品等 ■外売場/野菜苗､大型肥料･用土､植木鉢等

お問い合わせ先
前橋市亀里町1307-1
TEL:027-220-2427
FAX:027-220-2424

たさいひろば JA直販 愛菜館

営業時間:毎週火曜日定休/9:00～18:00

取扱商品

■産直野菜
農産加工品/店頭精米等

お問い合わせ先
前橋市古市町106-1
TEL:027-210-7788
FAX:027-210-9811

『県本部通信』における個人情報の取扱いについて

『県本部通信』に投稿いただいた方の個人情報は、プレゼントの発送やお返事、紙面での紹介に使用させていただきますのでご了承ください。また、これらの個人情報は前記の目的以外には使用せず、ご本人より事前に同意をいただいた場合以外には一切開示いたしません。

自由なご意見・ご感想をお寄せください。

《あて先》
〒379-2147群馬県前橋市亀里町1310番
JA全農ぐんま「県本部通信」係まで
E-mail：info-gunma@gm.zennoh.or.jp
※JAメール等でも結構です。

プレートをキャンバスに見立てて

Art Cooking

Food adviser
石垣 恵美
1979年から群馬県家の光講師。
FM局等でも活躍中。

うどの豚バラ肉巻きのじぶ煮風

材　料

2人分　　（1人分319kcal）

- うど……1/2本
- 豚バラ肉薄切……100g
- 片栗粉……大さじ1
- サラダ油……小さじ1
- 水……150cc
- かつおだし……2.5g
- 醤油……大さじ1
- 酒……大さじ1.5
- みりん……大さじ1
- ハチミツ……小さじ1/2
- 青み……適量

作り方

1. うどは皮をむき、縦半分に切りさらに3㎝幅に切る。
2. うどにバラ肉を巻き、片栗粉を軽くまぶす。
3. フライパンにサラダ油を入れ火にかけ、肉巻きうどの両面を焼く。
4. 鍋に**3**の肉巻きうどを並べ、水150ccとかつおだしを入れ、醤油・酒・みりん・ハチミツを加え、落し蓋をして中火で煮込む。
5. 器に**4**を盛り、青みを添える。

■発行／平成30年４月１日発行　■発行所／全国農業協同組合連合会群馬県本部　管理部企画経理課
■発行人／山口　靖則　〒379-2147 前橋市亀里町1310番地 TEL 027-220-2223 Fax 027-220-2234
■ホームページアドレス／http://www.gm.zennoh.or.jp　■E-mailアドレス／info-gunma@gm.zennoh.or.jp

R100 古紙配給率100%再生紙を使用しています
PRINTED WITH SOYINK この印刷物は大豆インキを使用して制作しています。